



2025年9月1日

各 位

株式会社クシム
代表取締役 田原 弘貴
(証券コード:2345 東証スタンダード市場)
(お問合せ先)代表取締役 田原 弘貴
電話03-6427-7380(代表)

第29回定時株主総会に係る投資家説明会における質疑応答について

当社は、第29回定時株主総会に係る投資家説明会を2025年8月29日に開催いたしました。株主様および関係者様よりいただきましたご質問について、説明会においてご回答した内容をお知らせいたします。

記

1 説明会資料

当日の説明会資料については、以下よりご参照願います。

<https://drive.google.com/file/d/1yNjH7RR9rkvdHM3zgB3Jxcpe7reI79kV/view?usp=sharing>

2 ご質問事項及び当社からの答え

【ご質問事項①】

・株式会社ZEDホールディングス(以下、「ZEDHD」といいます。)の議決権行使に係る東京高等裁判所への抗告について、結論までのスケジュールの見通しを教えて欲しい。

【当社回答】

確定的ではございませんが、ZEDHDの臨時株主総会の招集日は2025年9月3日であり、その招集日に併せて結論が出るものと認識しております。

【ご質問事項②】

・議決権行使の申立てについて、東京地方裁判所において当社の申立てが通らなかった客観的な理由及び今後の対策及び見通しを教えてください。

【当社回答】

平成26年度の会社法改定による条文部分が争点であるため、判例のない申立てとなったため、東京高等裁判所での判断が前提となっていたのかもしれませんが。東京地方裁判所への異議申立てに際し、神垣先生の間接調査報告書や各種資料、証拠証跡を精査し、提出してまいりました。しかし、異議審の決定の内容においてこれらに対して言及がなく、ご検討を頂けていない箇所があるため、今後の高等裁判所への抗告では、これらの点を主張して参ります。

もし、高等裁判所においても当社の主張が通らない場合、本訴を平行して行います。その際には、ZEDHDの資産流出を阻止すべくスピード感を重視して進めて参ります。具体的な手法や論点については、裁判戦略を鑑み差し控えさせていただきます。

【ご質問事項③】

・今後の事業展開について、ブロックチェーンやコンサルティングは、仮想通貨を狙っていくのか。もしくは、金融やゲームなども対象とするのか教えてください。

【当社回答】

案件としていただける場合は、積極的に取り組んでまいります。また、ブロックチェーン技術者集団として、当社の技能はブロックチェーンのみに限定しているものでもございません。特にRWAの共同開発などは、金融商品の知見が必要になるため、充分に対応できると考えております。しかし、現在はブロックチェーン関連の受注が多くあり、その他分野へリソースを割けない事情もございます。

【ご質問事項④】

・発行可能総株式数の増加が決議されています。今後の調達資金について、どのような成長事業に投入するのかを、可能な範囲で教えてください。

【当社回答】

子会社が戻ってきた場合、短期的には、各社の資産が毀損している場合が高いため、正常な企業運営のための資金が必要になります。中長期的には、暗号資産を保有する上場企業は増加傾向にあるため、運用管理基盤が求められると考えており、そのインフラ基盤の整備へ資金と投じて参ります。その上で、当社の運用戦略に合致する暗号資産を購入・運用し、売上につなげてまいります。また、「運用」、「トレジャリー」、「カストディ」、「エンジニアリング」が相乗効果を出せる環境を整備してまいります。

【ご質問事項⑤】

・トレジャリー戦略はZaifの取戻しを前提としているのかを教えてください。

【当社回答】

「トレジャリー」という暗号資産の新たな事業とZaifが有する「カストディ」機能をどのように有機的に結びつけるのかは、とても重要な点ではあります。しかし、Zaifの喪失により、当社の営業戦略の全てが実行不可となることはなく、その他事業分野への取組の強化を進めてまいります。

【ご質問事項⑥】

・代物弁済された子会社の従業員の方々とコミュニケーションは問題なくとれるのか教えてください。

【当社回答】

従前より現在の経営陣は、各子会社の現場スタッフとはコミュニケーションを緊密にとつてまいりました。経営陣の頻繁な変化や従業員個人のキャリア等により退職等の選択肢を取られる事もあるかと存じますが、全体的には問題なく事業を推進できる体制を構築できると考えております。

【ご質問事項⑦】

・神垣先生による調査報告書の最終版はいつ頃に完成かを教えてください。

【当社回答】

最終的な報告書は、次回の定時株主総会(2026年1月末)までには完了予定でございます。今回の中間報告書は、本株主総会に間に合わせるように調査者と調整し進めて参りました。具体的なスケジュールは、現在進行しております裁判の状況により流動的でございますので、詳細は控

えさせていただきます。

【ご質問事項⑧】

・旧経営陣を刑事告発する予定、見込みはあるのか教えて欲しい。

【当社回答】

訴訟戦略全体に係って参りますので、控えさせていただきます。

【ご質問事項⑨】

・旧経営陣に対する損害賠償請求訴訟や証券訴訟にクシムとして関与する予定はあるか教えて欲しい。

【当社回答】

旧経営陣に対する損害賠償請求は行わなければならないと考えております。しかし、損害額の見積りが難しいこともあり、詳細なスケジュールについては控えさせていただきます。証券訴訟については、現在の訴訟と並行して行うことは難しいため、検討自体が進んでおりません。

【ご質問事項⑩】

・全ての株主がクシムの将来に希望を持てる話をして欲しい。

【当社回答】

本日の説明会において、事業計画等のご説明できたのではないかと考えておりますし、ご説明させて頂いた内容には、実現不可能な事項等は記載しておりません。

私と取締役である田中は、株主様とのコミュニケーションを最優先事項として認識しており、可能な範囲で詳らかに会社情報を共有することを基本スタンスとしております。

本日の説明会の内容が、本日時点で株主様へお伝えできる情報の全てでございますので、何卒ご配慮いただければ幸いです。

【ご質問事項⑪】

・田原社長はJPYCの岡部社長と緊密な関係と伺っておりますが、今後、クシムの事業とステーブルコインとの親和性について教えて欲しい。

【当社回答】

JPYCの岡部社長とは、私が大学生のころからお世話になっており、日本円建ステーブルコインを発行されるとの事でお祝いを申し上げます。

ステーブルコインとは、当社のエンジニア事業やカストディ事業において親和性があると考えており、特に自己完結型ウォレット等で当社の強みを発揮できると考えております。

3 お問い合わせ先

株式会社クシム IR担当

Mail: contact@kushim.co.jp

以上